

口頭発表 | 医療安全対策、リスクマネジメント

[O05] 口頭発表5

医療安全対策、リスクマネジメント (1)

座長：岡部 礼典（八王子薬剤師会 [東京都]）、森戸 敏志（石川県薬剤師会 理事）

2017年10月9日(月) 09:00 ~ 10:00 第11会場 (東京国際フォーラム G棟6階 G602)

[O-05-01] 調剤業務トータル支援 ITシステムの開発 (第28報)

投薬台撮影カメラを利用した患者対応の事例報告

○南陽介¹, 吉川 香奈美¹, 関原 弘喜², 片寄 勝邦², 梶田 賢司², 宗本 忠典², 中村 信也³, 中室 克彦⁴ (1.すずらん薬局, 2.株式会社 クカメディカル, 3.東京家政大学家政学部, 4.摂南大学 [奈良県])

【目的】当薬局グループは独自開発した医薬品・業務管理を目的とした調剤業務トータル支援 ITシステム(以下 ITシステム)を保険薬局へ導入し、調剤ミス低減を実現してきた。又、医薬品在庫管理については ITシステムと人による棚卸作業により、ITシステムの在庫(以下システム在庫)と実在庫を把握し、調剤過誤の可能性事例の発見、患者サービスの向上に努めてきた。実際、システム在庫と実在庫が一致せず、患者に確認する際には電話連絡を行う。一方、医薬品在庫管理が正確な場合であっても、患者から「薬が無い」等の問い合わせがあり、これらの対応は従来非常に時間を要した。今後、認知症患者が増加傾向にある日本において、患者対応はより多くの時間を要し、薬剤師業務の精神的負担となると考えられる。その為、より迅速で正確な患者対応をすることを目的とし、ITシステム導入済の調剤薬局で投薬台撮影カメラ(以下投薬カメラ)を設置・利用し患者対応をした事例の収集を行った。

【方法】内科・外科を診察する診療所の門前薬局で調査を行った。調査期間は2016年1月~12月の1年間。棚卸作業におけるシステム在庫と実在庫の差異事例や、患者からの問い合わせ事例の内、投薬カメラを利用して対応した事例の収集を行った。

【結果】調査期間1年間で投薬カメラを利用し、患者対応を行った事例は全11件であった。この内、患者からの問い合わせ対応は4件で、全て決定的な証拠があることで自信を持った親身な対応が出来た。棚卸作業における在庫数量差異による患者対応は7件で、患者へ連絡すること無く投薬カメラで確認ができた事例もあり、その内1件は過誤の発見につながった。従来の ITシステムと投薬台カメラの併用が、調剤過誤への対応をより充実させた事例となった。しかし、医薬品を交付する場面が録画出来ていなかった事例が1件あった。これら各事例の録画の確認作業は約10分以内であった。

【考察】投薬カメラの利用により、患者からの問い合わせ対応処理や、従来のシステム在庫と実在庫を把握する事で発見した調剤過誤の可能性事例の検証を容易にし、業務の効率化と調剤過誤発見に有益であることが示唆された。投薬カメラの有用性の向上には、確実に撮影出来る投薬手順の統一と、現状では後日薬局患者の録画映像確認に時間を要するため、録画検索方法の改善の必要が示唆された。

【キーワード】 ITシステム、投薬台撮影カメラ、患者対応、医薬品在庫管理